

3-2 教育・学修機能の高度化等に関する情報システムの研究、推進 ＜事業計画＞

平成25年度から年次計画で逐次答申してきた学修ポートフォリオの研究成果（「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」、「学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方」、「eポートフォリオシステム構築に伴う留意点と導入事例と課題」）を編集して参考指針としてとりまとめ公表し、eポートフォリオシステムの導入・整備・活用を呼びかける。

＜事業の実施結果＞

「大学情報システム研究委員会」を継続設置して、平成25年度から研究を開始した結果を「学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針」としてとりまとめ、平成29年5月の総会で報告した後、6月に大学長宛に送付するとともに、本協会のWebサイトに掲示・公表した。また、「教育改革FD/ICT理事長・学長等会議」、「教育改革ICT戦略大会」、「教育改革事務部門管理者会議」、「大学職員情報化研究講習会ICT活用コース」において紹介し、eポートフォリオシステムの導入・整備・活用を呼びかけた。

大学情報システム研究委員会

4月18日に5名が出席し、1回開催した。以下に、参考指針としてとりまとめた経緯と内容を報告する。

（1）参考指針作成の経緯

三つのポリシーが義務化され、教育の質保証として卒業時の学修成果を客観的に提示するディプロマ・サプリメントなどによる可視化の説明責任が要請されている中、重要なエビデンスの一つとして、学生自身による学びの振り返りによる学修方法の獲得と学修成果の蓄積、教員自身による授業成果の点検と授業方法等の改善、教育プログラムの見直し・改善に学修ポートフォリオの導入・活用が中央教育審議会でもとりあげられ、アセスメントの重要な手段として大学での対応が急がれている。

しかし、学生、教職員に十分理解されていないこともあり、期待した通りの成果が報告されていないことから、本協会の「大学情報システム研究委員会」で学修ポートフォリオ導入に伴う問題点の整理から検討をはじめ、導入の促進策と有効活用の方策、eポートフォリオシステム構築に伴う留意点に亘って、体系的かつ総合的に年次計画で研究を展開することにした。

平成25年度から検討を進め、26年度に「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて」、27年度に「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」、「学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方」、28年度に「eポートフォリオシステム構築に伴う留意点と導入事例と課題」について逐次答申を行い、29年度に最終的に統合・編集し、「学修ポートフォリオシステムの導入・活用等の参考指針」として、平成29年5月31日の第19回定時総会に報告した。

（2）参考指針の内容

参考指針は多くの留意点を掲載しているが、特に大学に配慮いただきたい点を以下に報告する。

※シラバスに上級生・卒業生から音声等で学生に呼びかける工夫が有効であること
 ※学修状況の確認に「ワークシート」、「can-doリスト」の導入が極めて有効であること
 ※学生からの学修状況の報告に教員からコメントのフィードバックが不可欠であること
 ※授業価値の振り返りに簡便なティーチング・ポートフォリオシステムが望まれること
 ※学修ポートフォリオと教学データを組み合わせたIRシステムの接続が必要であること
 ※初年次教育用・達成度振り返り用・キャリア用のポートフォリオ構築が望まれること
 ※利便性を高めるためにシングルサインオン、モバイル端末への対応が必要であること
 ※学修不安を抱える学生の相談助言体制、ポートフォリオ情報の管理が必要であること
 ※eポートフォリオの構築には、独自開発、パッケージ利用、オープンソース利用の長所・短所を整理して、大学の対応力に見合った方法を選択することが重要であること、などを提言した。

以下に、参考指針の概要を紹介する。

- ①「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」としては、卒業生、上級生からシラバスに音声に掲載し、学修ポートフォリオの重要性を学生目線で呼びかけていく工夫を紹介している。
- ②「ワークシートの作り方」としては、授業の進み具合を点検するワークシート、学修達成度を確認するワークシートに必要な構成要素（学修時間、知識・技能・態度の定着、知識・技能の活用と創造、主体的な学修行動の定着など）を掲げ、ワークシートの例示を掲載した。
- ③「学修ポートフォリオ情報の活用対策」としては、授業の有効性を点検・評価する留意点として、教室外の学修時間数と学修行動の把握、どのような能力が身についたかを点検するcan-doリストによる検証と授業評価アンケートを組み合わせることで学修力の定着状況を総合的に点検するとともに、授業を振り返るためのティーチング・ポートフォリオの導入を指摘している。その際、教員の負担を軽減するため簡易版のティーチング・ポートフォリオシステムを提示し、学修ポートフォリオから「学生到達度の自己点検の評価」、授業評価アンケートから「授業内容の取り組みの評価・意見」、教務システムから「成績情報の度数分布」の情報をポータル画面で一覧視できるようにして、今後の改善点を教員がコメントできる仕組みを考えた。
- ④「教職員の行動変革を推進する取り組みの留意点」としては、IRデータを可視化して役員、教職員がディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとのマッチングを行えるよう指摘している。
- ⑤「eポートフォリオシステムに求められる留意点」を次の通り整理した。

一つは、初年次教育のeポートフォリオとして、1週間ごとの行動目標を設定して振り返る「週間ポートフォリオ」の機能が必要であること。その上で「達成度ポートフォリオ」の機能が必要で、「科目別達成度eポートフォリオ」と「学年別達成度eポートフォリオ」を主要科目又は必修科目で実施することが望ましいとし、「ディプロマ・ポリシー達成度の可視化イメージ」を図示して自動的にチャート化できるようにした。さらに、「キャリア用のeポートフォリオ」を例示した。

二つは、eポートフォリオシステムに求められる利便性について、モバイル対応できるようにするとともに、教員からのコメントをフィードバックする負担を軽減できるようにするため、「ほめる、共感する、ねぎらう、励ます、促す、質問する」コメントのテンプレートを例示した。

三つは、システム利用上の留意点として、書き込みを学生に促すためのヘルプデスク、

ファシリテータによる呼びかけの体制作り、障害学生に対する相談・助言の仕組みと対応の整備を掲げた。また、学修行動のモニタリングをシステム化するために、ワークシートの提出状況を自動的に点検できるようにすること、行動記録や学修達成度の内容確認にテンプレートを組み込むこと、eポートフォリオ情報を管理するために学生との契約が必要であること、eポートフォリオ情報のアクセス権を設定すること、情報の暗号化が必要であるとした。

四つは、eポートフォリオデータとIRシステムとの接続の仕組みについて、学士力の到達目標と学修達成度、成績評価などの主要データを相関させてレーダチャートなどで可視化することにより、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの整合性を点検・評価できるようにしておく必要があり、「達成度の可視化によるディプロマ・サブリメント」のイメージを掲げた。就職でどのような能力が備わっているのか、何ができるのか、具体的な能力獲得のプロセスについてeポートフォリオをベースに図示した。

五つは、eポートフォリオシステムの導入事例として、独自開発、パッケージ利用、オープンソース利用の特徴、代表的なポートフォリオ画面の実例を掲載した。なお、参考指針の詳細は、巻末の平成29年度事業報告の附属明細書【2-6】を参照されたい。また、導入事例を含む全文は、本協会Web (<http://www.juce.jp/info-system/port.pdf>) に掲載している。